京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢
定價▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料金▲五號活字十七字詰一行一回金十六錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郞
發行所 京城西小門通 京城新報社
電話六六三番 振替口座京城四五六番
仁川宮町三丁目 電話二一一番 仁川支局
東京市京橋區南佐柄木町十番地 東京支局

寄書

スカンヂナビヤ一年間の見聞(七)

在瑞典ストックホルム 三浦彌五郎

▲清廉高潔なる國民 其說に曰はく外人の一時の快樂の爲めに一般本國人の健康を害し善良の風俗を破るが如きは忍ぶ能はざる所なりと其の代り僕婢の末に至る迄質朴且正直にして室内の鍵を卸さずとも盜みを爲すものなく停車場、汽車又は船中杯にて忘物を爲すも返り來ることを疑なし盜を何とも思はざる朝鮮人に惱まされたる予に取りては此の點は至大の快感を與ふ、賣婦は絶無にはあらざるべきも殆んど見當らず、乞食は公園内にて繪葉書鉛筆杯を買ひ呉れと求めたる二三の老人に出逢ひたることあれども市中には徘徊するものなし、露都の寺院の入口出口には乞食群居すれども瑞典の教會堂には少しも居らず、從來我國に於ても外人の旅行者を增加せしめ其財布の金をはたかしむる爲め種々の設備を施すを要すと主張する者あり現在の我國の程度に於ては誠に理由ある議論にして外人の批評は之を他山の石とすべく特にホテルの設備の如きは最も必要なれども其の他例へば道路橋梁の修築、市街の改良、點燈、掃除、公園病院、保養所の建設、上水下水の布設の如きは抑々自國人の便利、衛生、利益の爲めに當然作らざるべからざるものにして旅行外客の如きは自から之に均霑すると云ふに過ぎず、若し此心持を思ひ違ゆるときは國民の精神上に恥はしき影響を及ぼすこととなしとせず、予は瑞典の前記の方針に對して敬意を表すると同時に東洋式の風流過ぎたる如何はしき外人接待方法を以て交際の道を得たりと心得るが如きは是れ自ら侮りて却て被接待者の心底に我を輕蔑するの印象を與ふるに至らざるやを恐る。

▲諾威の地勢と其風光 諾威はスカンチナビヤ半島を北より南に二分するチユーレン山脉(龍骨山脉)の西側に位する狹長帶の如き國にして地質は岩石多く地味概して磽确なれども其の地形山海に迫りて幾多深長なる入江を形成す世界に名高きフィオールドなるもの即ち是なり其の形狀鎭海灣馬山港の灣入に似て一層雄大なるものなり首府クリスチアニャに因みて名けたるクリスチアニャフィオールドの如きは小なる方なれども尚十里の長さを有し之を德水道釜島水道馬山浦直路の三里に比すれば實に三以上なりとす史に徵するに右等の入江は往昔は海賊の巢窟にして所謂北方人の根據地なり彼等は其フォードルより出で獨逸の北邊及英國に侵入し殖民したるなり彼等の乘りたる當時のバイキング船二隻は現にクリスチアニャの博物館の構内にて之を見ることを得べし諾威は右の如く天與の風光頗る雄大奇異なるを以て夏期歐州本土及英米等より來る遊覽船、觀光團等夥しく諾威人も亦外來客の爲めに設備を施し便利を供し以て其の收入を多くするに汲々たる有様なり。

内亂の發展と國際法(四)

法學士 蜷川新

一、內亂と國際法

(八) 實例

反徒の獨立承認に關する實例を檢するに必しも學說の如く時機の宜きを得さるもののあり左にこれを例示すべし。

一、北米合衆國の獨立承認

此承認は佛國先づ之れを行ひしものにして一千七百七十八年二月六日の通商條約を以てしたるものなり、其の條項は寧ろ反徒と同盟を結ぶにありたり。此承認に關して英國は之れを以て尚早且反徒に黨するものとして佛國に抗議を提出したり後ち英國は一千七百八十三年のウェルサイユ條約を以て北米の獨立を承認したり。

二、南米西班牙殖民地の獨立承認

一千八百十八年南米に於ける西班牙殖民地其の獨立を企圖し其の承認を合衆國に提言したりしに際し前途の成功尙は不確實として米國政府は一旦之れを拒絶せしも反徒の成功確實なるに至り北米は率先して其の獨立を承認したり。

三、白耳義の獨立承認

白耳義の獨立は一千八百三十一年の倫敦會議に依り承認せられ一千八百三十九年に至り和蘭は之れを承認したり。

四、希臘の獨立承認

希臘の獨立は一千八百二十七年諸强國に依り承認せられたりしも土耳古は一千八百三十二年に至り之れを承認したるに過ぎず。

五、ナーブル王國新政府の承認

ナーブル新政府は其の舊王の尙は未だ王權を主張しつゝありしに拘らず一千八百六十年英國は之れを承認したり。

六、伊太利王國の承認

伊太利王國の既に獨立國として承認せられたりしに際し獨逸の數國は之れが獨立を承認せざる可きを主張したり是に於てガーブル宰相は此等數國の領事の承認狀を取消したり是に於て此等諸國は伊太利獨立の承認をなすに至りたりし事實あり。

七、パナマ共和國の獨立承認

パナマ共和國のコロンビヤより獨立を企劃したりしに際し北米合衆國は竊に反徒を助け一千九百三年十一月三日獨立の宣言發布せらるゝやコロンビヤの尙ほ未だ反徒討伐の準備中なるに拘はらず同十一月十三日を以て合衆國は其の獨立を承認したり。(國際雜誌より)

外事一束

▲伯林● 會議列國に對ひ露國伊土戰爭を終了せしめんことを提議したりと云

▲選擧● に際し獨逸政府側の非社會黨的哀訴は一般に嘲笑を以て迎へられ各

▲急進● 主義諸新聞は殆ど皆決戰投票に於いて社會黨を援くべしと主張せり

▲佛國● 下院は新首相に對し大信認案を可決す蓋首相の性質實務的なるに由

▲北部● 伊太利駐在中の獨逸外相は多分羅馬に至り伊國外相を訪問すべしと

▲西班牙● 阿片會議の最終決議は獨逸委員の提案を修正せしものを基礎とすと

▲波斯● 橫斷鐵道豫備調查財政的準備整ひ英露佛三國銀行家假計劃を起草す

▲英國● 昨年の商船建造高百八十三萬噸に上り前年度に比し六十六萬噸を增

新刊紹介

▲日本青年(第四卷一號) 大日本青年中學會の機關雜誌だけありて青年の讀むべき記事を以て充されたり(東京市本鄕區森川町文成社發行一冊十五錢)

▲無我乃愛(第四十一號) 伊藤證信氏の『信念』は能く無我愛の本領を發揮し『新生』の一文は一方の眞理を含み『革命思想の流通』『赤裸々』等亦讀むべき文字なり(一部三錢東京市千駄ケ谷六八三番伊藤證信方我生活社)

▲東京經濟雜誌(千六百二十八號) 本誌重要記事は小林博士の『在外正貨の保持』松尾小三郞氏の『歐洲並日本港灣を論ず』莊田秋村氏の『物價騰貴は軍費增加に原因す』『社說の『四十五年度豫算の經濟上に及ぼす影響如何』等なり(一冊十二錢東京市京橋區彌左衛門町經濟雜誌社)

梁川庄八(やながはしやうはち)

第八十三回 小金井蘆洲演

庄『ウム成程』き『と云ふのは貴方のや[illegible]な御身分ある御歷々樣や高持の百姓衆や織元と云ふような御方ばかりが、手前共の御客樣でございますから、然う云ふ風儀の惡い御客は誠に迷惑なのでございます、萬八と云ふ男は素と堅氣な百姓でございましたが、今日此頃博奕打の仲間に這入て今日では鋼鐵入の脇差なぞを狹し大きな貸元面をして參つては名主樣と一緒に遊ぶのでございます 庄『ウーム乃公も噂に聞たが、萬八は每度博奕の資金を名主の伴藏から借りて行くのは每度の事で、貸せないとか持合せがないとか云ふと怖待なこと…… 庄『ウム無いなんと云ふと威嚇文句を云ふのだな き『威嚇か何か存じませんが、いよ〳〵貸さないと云へば代官所へ行く然うしたならば筋道が分るだらう、惡事に掛けちやあ上も下もありやしないの、差別がないのと申して、何か獄門棚に首を並べれば等級はありやしないの、それで事が濟むなんて云ひますと、伴藏さんがまあそんな事を云ふな〳〵と云つて、到頭金を出すところを以て見ますと、何でも伴藏さんは萬八に惡い尻を押へられて居るのだろうと宿の主人なども申して居ります』と問はず語りの話を聞きまして、庄八は獨り心に頷き此邊が探索の眼を注けどころだ、勇吉の言葉と符節を合したやうだ、して見ると此間の勇吉の話は全く推量ばかりではないな』と思ふ途端に折も折とて表階子をとん〳〵〳〵、下の女中が上口の處で 女『お金どんお金どん』き『何だへ 女『あのね伴藏さんがお入來になつたよ、何時もの座敷へ御案內してお吳れ き『あいよ旦那うんざりしましたね、噂をすれば影とやら、若王子の伴藏さんが參つたのでございます、何うせ一人ではございますまい一寸御免』と立上る、心で領し梁川庄八お金は二階から き『をや被入しやい』下から上つて來たのは萬八に名主の伴藏でございます き『サア旦那此方へ』と云ふは庄八の上手の座敷、二人は隣席に客が居るのも頓着なく二階の拔けるばかりの足音させて座敷に通り、兩人とも大胯をかいて 作『たきん今夜は萬八と非の新右エ門の處に行くのだから何でも宜い出來次第の肴で早く五六本燗を付けて持て來て吳れ き『ハイ畏りました』と下に行く、後に殘つた作藏は隣室に客の居るとも知らず、稍低聲にて 作『萬八貴樣二十兩貸せば此とこまが破るじやないか、五兩八兩なら何うか工面も出來るが、もう是れ二十兩となつたひには纏つた金だ、毎度の事で然う何うも金の生る樹を持つて居る氣で居られては困る、今日は俺もいろ〳〵工夫をして二十兩拵へて來たが、何うかまあ萬八此二十兩は殘らず賭たねへように爲て吳れ貴樣は大分博奕は上手だそうだが、隨分燒賭もするそうだが些たあ世帶持も爲て吳れなくちやあ困る、まあ二十兩のものなら十兩懐に入れてさうして十兩賭つとして、若し折が惡かつたらば又目の出るところまで我慢して少しは斯ふ手を縮めて掛つて吳れるやうでなくては往けね、なあに取られ、ば又伴藏から借りるから宜いとは云て手前が燒賭をして取られちゃ、又張求に來ると云ふ譯では俺れも然う〳〵は縮かねへ 萬『濟みませんねへ然う〳〵一つ御意見を聞た日にやあ小哥あ穴へでも這入りたいやうでがす、まあ併し斯う云ふ親類を以たと諦めて下さい、其代り二十兩お借り申して新右衛門宅でてぽんと一つ目が出さへすれば十倍……二百兩になるまいものでございませぬ、然うなれば元金の外に、こりやお禮でございと云て、幾干か添けてお返し申しやす 作『まあ然うもして吳れ然うして置けば又貴樣が後で借りる時の都合も宜し、俺の方でも貴心も宜い稀にやお元金ぐらい返して吳れ 萬『今夜は顏が宜うがすから相違なく打當てますからね 作『ぢやまあ今日は貴樣に二十兩貸して遣る』と云ふ聲が慥に聞へて居る、庄八は尙ほも聞耳立つて聞かうとする處へ下から酒肴を持て女中のお金が上つて參りました き『さあ旦那樣お誂へでございます 作『いや大に御苦勞〳〵さあ萬八話は是切りとして大きいもので盛切を遣て行け 萬『然うですな此丼に一杯飮んで行きやしょう』と器の水を明け酒を一杯注がせてぐうつと一口に飮干しました



東京電報

●國民黨の大會 國民黨は二十日午後一時本部樓上にて大會を開き富田幹事開會の挨拶を爲し次で河野廣中氏會長席に着き宣言書及び決議案を附議し異議なく可決し當日常議員は議長指名の銓衡委員五名に一任することゝし犬養大石兩氏の演說あり同四時陛下の萬歲を三唱して散會す常議員は[illegible]氏補缺に中島[illegible]氏を推し他は重任なり

●政友會宣言書 二十日政友會代議士會にて決定發表せられし宣言書左の如し
[illegible]國運の伸張を期し[illegible]財政の整理[illegible]針を實行する所以の途たり本會は之に[illegible]面を刷新し其の緊要を[illegible]め本會の國家に對する責任は益 重大を加へ[illegible]の誠を盡し益 憲政の美果を收めん

●豫算大綱奏上 山本藏相は西園寺首相と共に參內し御前に於て陛下へ明治四十五年度豫算大綱に就き詳細奏上し且つ御下問に奉答[illegible]

●西伯利急行便開始 露國西伯利鐵道局にては日本の生絲を露國に輸送する[illegible]

北京特電

●退位問題未決 御前會議に於て皇帝の退位問題を決せず事局は無期に移り[illegible]の前途も亦暗澹たり

●北京城門閉鎖 [illegible]の措置に出でたり

●大使の來津說 南京政府よりは孫逸仙を全權大使として[illegible]

南京特電

●革黨の强硬分子 退位後の清帝に皇帝の尊稱を存し多額の年金を與へんとの議に對し革命軍の本部中には共和の實に伴はざるものなりとして反對する者多し

●退位後の尊稱 唐紹怡が皇帝退位の尊稱は如何にすべきやと問ひしに對し孫逸仙は大上皇と爲すべく[illegible]

●交通總長 浙江都督湯壽潜は南京政府の交通總長に任ぜられ爲め浙江總督の後任は陶喚卿當選したり

雜報

●總督府の行政及び財政整理 二十一日朝鮮總督府は明治四十五年度行政及び財政整理綱要を發表せり其要旨左の如し
[illegible]は大体既定の方針計劃を[illegible]することなきも歳入の增收を[illegible]要なる計畫を立て其の實[illegible]に產業の開發に注かん[illegible]時に一方に於ては先つ官[illegible]行政費の省減を圖れり[illegible]は本府總務部を廢止[illegible]官房に移し取調局專[illegible]整理し其の事務を本府[illegible]を廢合し事務の簡捷を[illegible]所に付ては從來の三審[illegible]し下級裁判所に於ける[illegible]原則とし重大なる民刑[illegible]合議制とす此の整理[illegible]高等官八十人及判任[illegible]少し經費に於ては總[illegible]裁判所約十五萬圓鐵[illegible]餘及取調局印刷局[illegible]千圓餘其の他を合し[illegible]減少す而して此の經[illegible]て先つ米繭水產物及[illegible]の物品に對する輸移[illegible]貿易經濟の助長を圖[illegible]の爲め生する歳入の[illegible]にして爾後輸移出稅[illegible]品は僅に小麥、大豆、[illegible]、牛皮、石炭及鐵鑛の[illegible]經常部二千六百七十[illegible]六百十五萬圓餘合計[illegible]圓餘にして其の歳出[illegible]二萬圓餘臨時部二千[illegible]合計五千二百八十九[illegible]十四年度に比すれば[illegible]十五萬圓餘にして其[illegible]常部に於ては租稅の[illegible]圓餘鐵道增收百四十[illegible]の增收四十三萬圓餘[illegible]を合して二百六十六[illegible]於ては公債金募集金[illegible]及繰入金百二十二萬[illegible]萬圓餘なりとす而し[illegible]に基き計劃せる事業の重なるものは製鹽紅參、通信、鐵道、水道、港灣、土地調査、平壤鑛業事業、の擴張、森林保護、土地改良、產業調査、棉作奬勵等に關する事業、學校及金融組合の增設、沿岸及河川航路救恤土木事業及勸業に對する補助奬勵等也又行政官廳に就ては地方行政の改善を計る爲め地方廳に於ける職員を充實するの必要を認め道に事務官技術官等を增置し且つ慈惠醫院に醫員及助手を增置す而して勸業模範場附屬原蠶種製造所及工業に關する中央試驗所を新設し稅關監視署を增置し及在監囚徒の增加に伴ひ多少職員を增置す又醫院特別會計を設置し醫院並に濟生院の事業經營を統一せんとす

●總督府の新築 朝鮮總督府にては二百五十萬圓を投じて明治四十五年度より向ふ五ヶ年の繼續事業とし景福宮內に廳舍の新築をなす事に決し四十五年度豫算中に四十五萬圓を計上し同年度より工事に着手すべしと

懸賞論文募集

半島鑛業振興策

募集規定

一懸賞金壹百圓

右は當選論文發表と同時に當該論文寄稿者へ贈呈すべし。

一文章は論文體言文一致体何れにても宜敷成べく平易簡明なるを可とす。

一當選論文の決定は本社爲嘱鑛業關係諸大家の審判に因るものとす、而して當選論文の數は一篇とす。

一應募締切期限は來る三月一日とす

一當選論文の發表は來る三月十日の本紙上に於て爲すものとす。

一當選論文の發表は寄稿者の御希望に因り本名匿名何れになすも妨げなし但し匿名を要せらるゝ方と雖本社に對しては住所氏名を明かに通じ置かるゝ事

一募入論文は當選外のものと雖應募者へ返還せざる事。

附記 本懸賞は實際的鑛業振興策を募集するものなれば文章の巧拙は敢て問はざるものとす

京城新報社

●貴族會館發會式 朝鮮貴族會館發會式は二十二日午後二時より黃金町なる同會館にて擧行されたる出席者は貴族及び來賓二百名余にして會長朴泳孝氏病氣缺席に付副會長閔泳徽氏開會の辭を代讀し次に寺內總督缺席の爲山縣政務總監答辭を代讀し終つて奏樂の裡に午餐を供し後君ケ代の奏樂あり終つて 陛下の萬歲を三唱し散會せしは午後三時なりし因に伯爵李址鎔氏は目下賭博刑事被告人たる爲出席せず宋秉畯氏は旅行中により缺席す

●輸移出鑛產品 度支部調査による朝鮮に於ける明治四十四年中鑛產品の輸移出數量左の如し（數量單位は金鑛は斤鐵鑛銅鑛黑鉛は擔石炭は噸なり）

品名	數量	價格
金地金		九、〇九九、七九六圓
銀地金		三四、四六七圓
金鑛	一、五三七、九〇〇	二三四、八九一圓
鐵鑛	一、六四〇、五七八	二六八、六九一圓
銅鑛	三九二	七一三圓
黑鉛	一三一、〇四四	一三一、二九九圓
石炭	八六、八八五	三七六、四三七圓

●朝鮮土地會社計畫 大阪の濱田健次郎氏（元大坂商業會議所書記長たりし人）等の發起にて資本金二百萬圓を以て朝鮮土地株式會社を起し本店を京城に支店を大坂及び釜山其他二三ヶ所に設け朝鮮土地の買賣管理及び倉庫金融ブローカー等の事業を經營せんとし目下發起人の勸誘に奔走中なりと大坂時事は報せり

●貴族會館へ下賜 朝鮮貴族會館開館式に際し我 天皇陛下より清酒三樽を御下賜相成りたりといふ

●漢湖農工支店長會議 漢湖農工銀行にては廿四日午前十時より同行樓上に於て各支店長會議を開催し種々業務上の重要事項の協議をなすべしと

●湖南沿線の好景氣 湖南線工事に就き昨今同沿線に入り込む內地人多く爲めに引つゞき好景氣を呈せるが多くは雜貨商人にして木浦の如きは昨年は四十三年に比し人口約千四百人の增加を呈したりといふ

●道內務部長會合 內務部長會議に列席の爲め滯京中の各道內務部長は二十二日午前十時より司法部樓上に集合し各所管事務に關し打合せする處ありたり

●取引所委員會開會 既報京城取引所創立委員十五名は愈々二十三日午後二時京城日本人商業會議所に集會し今後の運動方針につき協議する由

●郵便爲替貯金振出高 朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所に於ける昨四十四年十二月中に於ける郵便爲替振出高は口數十三萬二千百六十八金額二百八十萬四千七百九十九圓にして之れを前年同月の口數十萬九千百七十六金額二百八十一萬一千九百七十四圓に比較すれば昨年は口數に於て增加し居るに拘らず金額に於ては減少を示し居るが其の原因は主として在鮮陸軍が其の地方各軍隊へ經費を送達するに郵便爲替を利用したるものが昨年度よりは振替貯金を用ふるに至りたる爲なるが如し

●稅制改正と民會 去る十九日の民會に於て懸案となりし稅制改正案に付更に二十五日民會を開き審議を續くべしといふ

●民團決議認可申請 民會可決にかゝる民團役所隣接地は過年度收入一萬圓餘病院費殘額六千餘圓等を流用し都合一萬六千五百圓以內にて買收の豫定とし二十日付を以て昨日府尹を通じて之が認可申請を爲したるが府尹は直ちに京畿道長官に進達せり不日認可の運びに至るべしといふ

●出羽司令長官出發 滯京中なりし第一艦隊司令長官出羽中將は廿二日朝當地發歸艦したり

●艦上の午餐會 出羽第一艦隊司令長官は二十三日其旗艦にて午餐會を催ふしたり總督府よりの出席者は別項の如し

●政務總監の下仁 山縣政務總監、倉富、石塚の兩長官、小宮次官、菊地長官、山縣少將、中山大佐、桑原秘書官、三本鐵道局參事の一行は二十三日正午第一艦隊艦上に開催の午餐會に列席の爲め同日朝下仁すべしと

●第一艦隊の出發期 仁川碇泊中の第一艦隊は來る二十四日朝仁川拔錨旅順に向け出發する事に決せり

●清酒戾稅撤廢運動 京城及び仁川の清酒釀造業者は二十一日午後五時花月樓に集會し戾稅撤廢問題及び度支部釀造試驗所に於て釀造する清酒の販賣契約に關する件等に就き協議し後新年宴會に移りたるが今戾稅撤廢問題に關し當業者の一人は語つて曰く『清酒戾稅撤廢に關しては多年の宿望なり而して我等釀造業者の多くは夙に朝鮮の土地が清酒釀造に適應し釀造の成績が內地の九州邊に比して決して遜色なきを認め爾來釀造の結果今日にては造石高も增加し漸次發達を遂げつゝあるが奈何せん內地より朝鮮に移出する清酒は造石稅金拂戾の制あるを以て年々滔々として朝鮮に移入し朝鮮に於て製造する清酒と競爭するのみならず一般の需用者は單に內地製なるが爲め良好なるかの如く思惟し從つて今や漸く發達しつゝある朝鮮に於ける釀造業者を保護し以て日本酒の外國輸出を奬勵するの目的に出でたるは勿論なるも之れが爲め國庫の損失するところは年々鮮少にあらざるべし今や日鮮併合せられて母國民の移住するもの日を逐ふて增加しつゝあるに際し僅少の內地當業者保護のため戾り稅を存續して朝鮮に於ける產業の振興を沮害するが如きことは理由に於てあるべからず要するに將來朝鮮に於ける釀造業の發達は確に歳入の財源を豐富ならしむる一なるべく又農業の改良發達に資することたるは言ふ迄もなしされば內地一部の當業者を保護せんよりも朝鮮に於ける當業者を保護し安んじて其の業に從事せしむるを可とす現に臺灣の如きも此の理由の下に各々清酒の戾稅を撤廢せるが我々當業者は臺灣の例に倣ひ戾稅撤廢の一日も速かならんことを祈らざるを得ず云々』而して京城、仁川、釜山に於ける當業者一同は近々此の理由の下に當局に請願書を提出する由なり

●四十四年下半期銀行利益金 過般來各銀行會社の四十四年下半期に於ける營業成績を連載せしが今各銀行の同期間の利益を摘列すれば左の如し

朝鮮銀行	十三萬五千百七十圓九十三錢
第一支店	五萬七百八十四圓八十二錢
漢湖農工	四萬五千四百五十五圓九十二錢
韓一銀行	四萬二千九百四十一圓
漢城銀行	四萬圓
百三十支店	二萬四千四百圓
朝鮮商業	二萬三千百九十二圓七十錢
十八支店	八千八百五十圓

●鐵原の發展と金融機關 京元線主要驛となるべき鐵原は近來經濟上に於ける急速なる發達を爲したると共に漸く之が金融上の需用に應ずべき金融機關設立の必要あり漢湖農工銀行にては廿五日總會の決議を俟ち直ちに同地へ支店新設に着手すべしと

●蠶種改良効果 朝鮮在來種の成繭は繭形不同品質雜駁系量貧少なるが故に其價格も僅かに一石十圓內外に過ぎず之を內地種昨年の價格一石三十圓乃至三十五圓最高四十五圓を稱ふるに比すれば一石に付二十圓以上の差額となる明治四十三年度の統計によれば朝鮮の總產繭高は約一萬四千石に過ぎずと雖も從來一般の推定によれば約三萬石と算せらる依て是の產額を悉く內地種に改良するに於ては一石の差假りに二十圓と定むるも一ケ年三萬石に對する六十萬圓の利益たるべし

●官營清酒と當業者 既報當地清酒釀造業者一同は度支部釀造試驗所に於て釀造する清酒を右讓造組合に販賣することとなりたるを以て二十一日の集會に於て之れが販賣價格其の他の件に就き種々協議するところありたりと因に度支部讓造試驗所に於て釀造せし造石高は四十三年は三百七十石にして四十四年は四百二十石の豫定なりと

●滿洲鮮人採炭狀況 奉天 滿洲撫順炭坑にては採炭苦力として鮮人八十名を傭入れ老虎臺分坑に於て使役したる處其成績頗る良好なる趣にて爾來續々傭入れ是又同分坑に於て使役中なるが現今の總數は二百六十餘名に達し將來も引續き隨時傭入れ各分坑に配置する筈なり

●各地の籾相場 度支部調査に係る本月五日現在京城外十九ヶ所に於ける平均籾賣却相場を聞くに石上等六圓二十七錢中等五圓八十二錢下等五圓三十五錢なるが其重なる地の平均價格を記せば京城六五八仁川六五六群山六八五光州六三〇釜山六九三大邱五五〇海州五四六平壤四七〇龍川五三六鎭南浦六〇〇等なり

●德壽宮の午餐會 德壽宮李太王殿下は二十四日午後零時三十分より寺內總督山縣政務總監上田軍司令官其他を同宮淳德殿に招待し午餐の饗應ある筈

●中山騎兵大佐の出發期 總督附武官より騎兵第二十六聯隊に轉任したる中山大佐は新任武官河野中佐の着任を待つて事務引繼の上赴任すべしと

●仁川民團艦隊幹部招待 仁川民團にては二十三日午後六時より入港中の軍艦第一艦隊出羽司令官以下十四名を八坂樓に招待す

●金物商組合總會 當地金物商組合は二十四日午後一時より會議所に參集し臨時總會を開く筈

●京城繁榮會の報告 當地繁榮會は來る二十五日午後二時より會議所に集合し昨年末大賣出の決算報告を爲す筈

●木浦電燈の點火期 木浦電氣會社は資本金二十萬圓にて既に昨年八月其筋の認可を得昨今發電所の埋立事務所の建築中なるが來る六七月頃は點火するに至るべしといふ

公人私人

▲伊藤慶太郎（仁川百三十銀行支店長）廿日入京
▲高田稔（新幕憲兵分隊長）同投宿山本
▲泉末吉（朝鮮銀行木浦支店長）同
▲松村利男（天津商業會議所書記長）同巴城
▲河地平吾（軍司令部囑托技師）同
▲加藤鐵次郎（鴨江日報社長）廿一日同不知火
▲澁谷太吉（漢湖農工銀行大田支店長）同
▲高山經慶（仁川實業學校長）廿日出發仁川
▲伊藤慶太郎（仁川百三十銀行支店長）同
▲菊池謙讓（大邱民長）同大邱
▲井上權之助（釜山百三十銀行支店長）同釜山

▲京城手形交換高▼

一月	金高	枚數
廿二日	一八五、四一四、六三〇	四九七

▲治外法權▼ 二十日の朝鮮新聞營業所落成披露會は中々盛大であつた何しろ政府無利子貸下げ金百二十萬圓で造られた程あつて、其立派な事は半島第一と申すべしだ▲披露會に於ける市原總裁は病中押して出たとあつて、肉落ち、色蒼く、平常の彼れとは見ぬかつた、彼れ壇上に立ち、縷々數千言、該營業所建築に關する來歷を說いたがドレ云ふ譯か、百二十萬圓の政府無利子貸下金に付ては一言も吐かなかつた▲去る四十二年定礎式のあるや、當時第一銀行の使用人たりし彼れは、他に語るに、自家が、赤穗城明渡しの大石良雄なることを以てした▲奚んぞ知らん定礎式の後ち、第一銀行を明渡して主君に殉した筈の彼れ市原は、大石を學ぶと同時に九太夫及び伴內を學び、生命を取とめた結果は、自家が曾つて明渡した赤穗城の主人と成濟まして、今度の落成式を擧げた▲とは過日披露會の模擬店で、某々等が、たでん燗酒をやりながらの立話を聞いたのだが、記者は某々等の市原評を可哀相だと思つた▲何は兎もあれ、大建築が出來上ると、ソレに這入るべき主人に壽命上の故障が起るのは、不思議で、彼の龍山官邸が出來上がると伊藤公や曾禰子が引續いて物故したなどは近き實例である▲聞く市原は目下肝臟病を惱み、病狀恰かも故曾禰子のソレの如しと、今彼れに死なれては朝銀の大事、ソコで聊か御弊を擔ぐ樣ではあるが、記者は彼れに保[illegible]を奬める▲披露會に於ける祝辭は何れも立派であつた、ソシて何れも營業所の落成は朝鮮銀行の基礎を堅からしむと云つた樣であつた▲ナル程新營業所の基礎は、セメントやコンクリートで造つてある、ダカラ堅い事は受合だが、營業所の基礎と銀行其物の基礎とを一シヨには出來まい▲朝銀が無利子貸下金で新營業所を造つたのは、之れ取も直さず、今後同行は無家賃の家で、渡世を營むと云ふ事である▲サレば如何に世が文明になつたからと云つて、朝銀が無家賃の營業所に這入る故、ソレで同行の基礎が堅くなつたと云ふ論法はあるまいではないか

辰市辯護士の惡評

▽斯くが如んば不埒也

辯護士法學士辰市本丸氏が元明治町一丁目株式仲買西村正之に對する野村祐治なる人の訴訟事件に西村の代理人として辛辣なる手段を弄したる爲め職掌柄不名譽なる嘆聞を受くべしとの事は既報の如くなるが世間傳ふる所に依れば同氏に取りては本件の如きは通常茶飯事にして決して珍とすべきに非ず曾て仁川に於て開業中の事なりとか仁川邑內李尙慶なる者が大工職田中又太郎に對し家屋代金請求の訴訟を提起するに當り訴訟代理を岩本英夫氏に依賴し岩本氏は此依賴を受くると同時に訴狀提起し置きしに辯論期日前に至り突然李より辰市辯護士を代理人としたるに付岩本氏の代理解任を通知し來りしにぞ岩本氏は理由不明に付李に就きて之を確めたる結果辰市が李に對し岩本は惡人なれば此訴訟も敗訴に歸すべし抔讒誣し運動の結果解任せしめしものなる事判明せしより岩本氏は赫となり領事館に訴へ出で時の領事**加藤元次郎氏**は辰市を懲戒處分に附すべき筈なりしも斯くてはとて**嚴重なる訓戒**を加へて落着せしめたる事あり又當地に在りては高橋辯護士が前山某より原金三郎に對する貸金請求訴訟事件受付の際も岩本氏に對して執りたると同一行動に出で事件を橫取りせしにぞ高橋氏は大に憤慨し同問題を當時の南部署長桐原警視に眞想の取調べを托したる結果一埓分明して辰市より**高橋氏に謝罪狀を差入**れ桐原警視の說諭を受け漸く事濟みたる事もあり又公證を否認して**岩本英夫氏に拳骨のお見舞**を受けたる事もあり又淸國人某の訴訟に關し不當の報酬を取り不法の行爲に出でたる爲め之れを憤慨したる淸人は毒藥を仰ぎて自殺せしより當時各新聞に筆誅せられし事ありなぞとも傳へられ又同人の**妾**なる廣島生の**宮本とわ**(二四)なるものは元仁川**八阪樓の藝妓**にして藝名を**秀勇**と呼ばれし者なるが同人を落籍するに當りてや秀勇は突然**自由廢業**同樣の手段に出で辰市方に驅け込みしにぞ八坂樓にては大に驚き歸宅を請求せしに茲に初めて同人の落籍問題を提出し得意の辯口に任せて金錢の貸借は民事問題なれば裁判にて爭ふべし然れば僕は辯護士なれば吃度勝つから結局訴訟費用が損なるべしなど說き付け僅の金を樓主に支拂ひたるまゝ今に至るも**殘金の七百圓餘**を**未支拂**其儘になし居れりとも云ひ近くは彼の侯爵**尹澤榮**氏に對し強制執行の際**財產隱匿罪**にて告訴せんと號し居たるが一萬餘圓の報酬を受取りて事件を落着せしめたる事もあり抔風評一として惡評のみなるが爲は要するに何人の不爲めにもあらず悉く自身の損なれば斯る評判を立てられざる樣本人の爲めに希ふ、因に西村對野村事件は二十二日公判ありし筈なれば一件の眞想は之に依つて判明すべきなり

喜蝶の歸化準備

▽目指すは淸國南淸

中の新地の大阪樓と云ふは彼の新町遊廓第一樓の支店なるが此樓のお職女郎に喜蝶と云ふがあり本年二十二才花ならば爛開の散りも初めずと云ふ眞盛りなるが此妓生れ付いての人形食ひにて少しノッペリした男を見ると手花で遊ばせ樣と云ふ行き方なるが夫れと知つてか知らずにか馴染んだのが彼羽織大盡として本紙に紹介された橫領犯人池田修吾(三〇)此がお誂ね向の男振りに初會の時からポーッとして終ひ大に身揚つて樂しんで居る間に池田は一件露現に及んで懲役六ヶ月に處されたとの新聞を見た喜蝶は差し上げて居た玉を二階から取られた程に驚き悲み此寒いのに監獄住居アノ蚊細いアノ人の身体で何として辛棒が出來ようぞ切めては何か差入ものをと苦心したが此と云ふ思ひ付もなく炬燵に炭團を三百添へて差入の手續に及んだ所然るもの、差入は相叶はずとお叱りを蒙つて引下つたが思案投首考へた結果が二百圓か三百圓で濟む事ならば百圓や二百圓は鐵道の鈴木を欺して捲上げ跡金は年期を增して貰ふにかするんだがと伺を出した所今日にては夫も叶はずとあるにぞ喜蝶はツク〳〵日本の法律の融通が利かないのを口惜しがり池田の出獄迄に鈴木から二三百圓取り上げて置き出獄すると同時に支那の共和政府の方へ歸化せんと決心し居りとイヤ御用心〳〵

無意見の總仕舞

▽眼の覺めた時は無一物

仁川京町開豊旅館止宿原籍神戸市生井上仙嶽市作吉峯三郎(三五)は新町一丁目美濃谷榮次郎の親戚なりと云ひながら雨に會つた幣束の樣な扮裝で三社祭の守札を持ち市中を賣廻る樣子の不審かしきより捜て見ると同人は元京都及び姫路等にて相當雜貨商を營み居たるも青春の氣は焦り一攫千金を夢み常に定期米に手を出し昨年來は九千余圓の負債を仕出來したるより止むなく夜逃となり前記美濃谷榮次郎とは親戚の間柄なるを以て便り來り榮次郎の情けを以て昔取た杵柄と再び定期米に手を出したるに失敗し去る十四日には正に死を圖らんと決心し居たる矢先今井長之助なる者の情を以て死を思止まり該守札を賣り漸く糊口を凌ぎ居るなりと尙同人の語る處によれば宮町二丁目淸水雜貨店へ賣りに行きし處同主人は元京都杉山商店の一番頭なりし當時知合なりしを以て思はず顏は火の如くなり言語を發するを得ざりし實に人の境遇こそ圖り難しと涙を流しての物語り

一日女房記事取消

▽双方から同日に

二十日發行の本紙に『出稼一日女房』と題し當地壽町一丁目櫻井市の內緣の女房勝俣よしが小使錢取りを思ひ立ち鼻の下の長い旭町一丁目の煎餅屋の主人が女房となる約束にて結納代りに金五十圓を受取ながらタッタ二日二晩にて逃げ歸つた旨記載したるに對し下の如く取消申込ありたるに付其全文を揭載す因に石井福松とは旭町一丁目の煎餅屋の主人なりとぞ

取消文

前略貴社御發行明治四十五年一月廿日附新報第三面御記載の出稼二日女房と題する記事は事實相違の爲迷惑仕●候間何卒此全文を揭げ御取消し度有之●此段御願申上候明治四十五年一月二十日京城壽町一丁目勝俣ヨシ
京城新報社御中

取消文

前略貴社發行明治四十五年一月廿日附新報第三面記載の出稼二日女房と題する記事は事實相違●有之●候間此の全文を揭げ御取消し度有之●此段御願上候明治四十五年一月廿日京城旭町一丁目石井福松
京城新報社御中

大和町の梁山泊

▽墮落書生集合所

大和町三丁目二十四番戸の溫突に七八名の浮浪人ありて諸所を徘徊し大和新地中の新地遊廓等にて身分不相應の遊興を爲すことあるを長野岸佐藤の三刑事探知し注意中の處頃日に至り一層舉動不審なるより現場に出張したるに門の入口に墮落書生集合所とありて戸內に入ると女子の出入を禁ずとあり又壁には『戀しくは尋ね來て見ろ大連の士の底には牧野が居るぜ元祿樓の桃の井へて居れ』など書いてあり而して五人の青年寢轉び居たるを本署に引致し引調の結果右は山口縣人稲田槇太郎(二二)福岡縣人熊野虎藏(二二)愛知縣人牧野俊顯(二〇)岐阜縣人山內道次(二〇)山口縣人古谷淸次(二二)の五名共謀して五十余ケ所に於て詐欺橫領竊盜の罪を犯しゃ山內は大和新地若松樓の一松元祿樓の九太夫中の新地常盤樓の朝日に稲田は元祿の桃の井萬遊亭の小百合に古谷は元祿の定九郎萬遊亭の小菊に熊野は元祿の由良の助へ何れも現を拔かし浪費したる事判明し尙ほ目下取調中

仁川京町の出火

▽原因は枕邊の洋燈

仁川京町一丁目四番地の三米穀商田中寅之進方より二十日午前四時二十分出火し見る〳〵內に隣家佐藤鐵哉小川源之助方に延燒し住宅三戸全燒したり總損害價格二千二百圓原因は火元なる田中寅之進が同日大田より歸宅し夜の二時頃まで友人と共に飲酒し居りて後呂洋燈を外して枕邊に置き其儘就眠したるより知らず〳〵布團の一端にて該洋燈を轉倒せし爲め忽ち發火布團に燃移りたるより寅之進は眠りしまゝ頭髮を燒き熱さに驚き起出でたる時は火は已に室內に燃擴がり居たるより大騷ぎとなり同二十五分に常備消防隊馳付け消防に盡力し同五時三十分漸く鎭火せり

龍山署の移廳式

龍山警察署は豫て新築中の處過日落成移轉せるは既報の如くなるが二十一日新築廳舍移廳式を舉行したりしが來賓は明石總長其他各警務官各署長警視民間有力者及び新聞記者等にして主客祝辭の交換ありて宴を開く龍山藝妓總出にて興を添け餘興には擊劍、手踊、浪花節芝居等あり極めて盛會なりしと

八名珠數繫ぎ

櫻井町居住李文與(三七)金千玉(三三)李千吾(三八)白致善(三三)朴龍夏(一八)李建植(二八)梁有植(二八)崔在順の八名は二十一日午後十一時半頃賭博の現場を南部署に檢擧され目下取調中

演藝だより

▲壽座● 二十三日の代り狂言は御好に依り義士銘々傳の內『堀部安兵衛』大序より高田馬場敵討まで切は所作事『常盤御前の伏見の關』大仕掛にて

▲浪花館● 三遊亭圓若一座の落語音曲手踊りにて每夜の大入りも全く一座總じての勉強の爲めなり目出度し

▲紀念演藝會 朝鮮旅行案內社にては一週年紀念の爲め二十三日午後五時より旭町一丁目歌舞伎座に於て演藝會を催し筑前琵琶落語藝妓の手踊其他あり

圓若の噺

大和素人投

廿日の夜浪花館に圓若を聽く

小圓都の顏の黑くて寸延びで圓藏を二廻り程大きくした樣だ、噺しぶりは圓藏を十廻り程も下手にして居るけれどその面影がうれしい、オッペケペーで一と頃いやがられた柳玉も改名して御當地では扇子一本で高座が勤まる、まあ御客樣が後のオッペケが出ない丈け樂をさして頂くのだ、若遊三の嫌味は論外大ひに踊る所ど、ニャ〳〵する所を買つてやるべし、圓若の百川、朝鮮にも東京の人は多勢居ますよ、そりや江戸の頃の事は繪草紙や黃表紙で見る丈けだが、萬町の落語研究會位ひ知つてるぜ、馬鹿にするない、あの噺は十年も前から圓藏が得意でやつてるよ』私しが見た噺も』すさましいや……だがい丶聲だね、子の藏ぶしとかいふものあれば大阪趣味だ、後へ付くドン〳〵といふ奴、いやだね、鎗さびは流石にうまい一言注意する、お前さんも大阪の三友派に十何年も入つて居るといふから、東京の事はお忘れだらうが吉原は火事で新築騷ぎ、電車が千住まで通つてるよ、この一座は總体に大阪式だけれど大分勉強はしてゐる噺をはしよつていやな氣をさせる樣な事は昨夜はなかつた皆んな踊つたり唄つたりするが踊は若遊三、唄は圓若に止をさす。

◎花柳界だより

▲仁川券番の米蝶は四十五年からは改めて必ず浮氣は致しませんと朋輩衆に誓言するそうだが聞けば彼は去年の暮に十二人の馴染客から引立て丶貰ひ新年には立派な晴着の仕度をせんものと目論んで居たに孰れも越中褌先きから外れて愁傷落膽の餘り男と云ふものはホンとに薄情なものモーモー浮氣は止めて京城のアの人一人を堅く守ります▲やよいの奴は山手町の水谷さんにアナタ早く奧樣を迎へぬと宜敷ありませんど忠告する親切振りは人聞きがよい▲昨日の本紙に淺岡の勇の出雲廻りを書いたがアレは勇でなく同樓の萬歲であつたから茲に訂正する而して勇は逃走後尙見當らぬソーだが萬歲は大塚重男と別府溫泉に洒落て居るとの確實な便り▲同樓は婆さんが八釜しいのみならず酷く妓共を虐待するので永續きがせぬとの噂併し三桝と萬歲は四十一年から働きつめたは辛いが萬歲はトートー今度スー〳〵▲たかめの梅子は辛うしても京城の木島さんを忘れ兼ね過る日も態々出張しはつねで一緒に晝食をなし同夜は旭旅館に宿り込み洒落の幕とは安くないね(仁川雀)

仙友雅會雜觀

四海

端を改め萬象維れ新に期したるの好期をトし同會は既報の如く廿一日旭町一丁目白水に春季大會は開催されたり先づ玄關には輕麗の筆もて仙友雅會々場と筆太に記され場內には滿堂無邪と沒古君の筆にて大々蹟全紙の篇額を天井脇迄に揭げあり會するもののキラ星の如く居並ぶ面々は農あり士あり商あり工ありで各々其境遇を異にしつれど所謂異名同体其心事の平凡なる顏る會の名に背かざるものあり直に席上揮毫は莞爾の中に開始され天南、東雲、沒古、神來、學鷗、鴨亭、枯淡、春翁の書畫家等の快妙の筆致は忽ち紙上に湧き各自の氣焔萬丈實に鬼神も三舍を避くるの慨ありき暫くすると晚餐の饍部は談笑の裡に運ばれ席定まるや日韓印刷會社重役明石桐一君の挨拶久保田君の答辭あり福引に充てし出品書は和氣靄々の中に抽籤ありたり其出品の主なるものは▲久保田天南君、絹本松雪中山水、同水墨田舍の景、絹本松上の鶴、外二三品▲淸水東雲君、絹本千疋鼠の行列、同丹頂の双鶴、同竹に雀、水墨の竹及び猛虎一幣の圖等なり▲沒古君絹本初夏山水、同水墨山水、同水墨石邊の竹、松上の鶴外七八葉▲天草神來君 絹本枯木寒雀、同水墨竹、同水墨山水外二三葉▲今村雲嶺君 絹本惠比須捕鯛の圖頗る入念のもの其他関体に至ては面白し▲松田學鷗君 絹本に書きし近作の二三首而して席上の即賦は紛々世事信堪憐、富貴功名只在天、手月手花仙作友、青山白水結良緣、外原賀君の生花は君が獨特の技倆を發揮して些の遺憾なし各々娛樂を共にして午後八時より思ひ〳〵に散會(會員投)